

Matsuyama Red Cross Hospital

地域医療連携室報

2017.5

No. **76**

基本理念

人道、博愛、奉仕の赤十字精神に基づき、医療を通じて、地域社会に貢献します。

基本方針

- 1 最適で質の高い医療を提供し、患者に優しい病院を目指します。
- 2 多職種によるチーム医療を実践し、安全・安心な医療を提供します。
- 3 地域の医療機関、保健・介護・福祉と連携を図り、急性期医療・専門医療を実践します。
- 4 災害医療、国際救護活動の充実を図り、赤十字事業を推進します。
- 5 将来を担う人材の確保と育成に努めます。
- 6 一人ひとりが生き生きとし、働きがいのある病院を目指します。
- 7 健全経営の維持に努めます。

新任事務部長紹介

武知 浩二



連携医療機関・施設の皆さまにおかれましては、日頃から当院の病院運営についてご支援、ご指導を賜り誠にありがとうございます。

本年4月1日付をもって事務部長を拝命しました武知浩二と申します。まことに微力ではございますが、地域医療の充実に少しでも貢献できるよう専心努力して参る所存でございますので、前任の渡部事務部長同様にご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

私は地元松山商科大学（現松山大学）を卒業後、昭和54年4月に当院へ入職し、38年となります。この間、医事課、会計課、用度課（現管財課）、経営企画管理課、人事課、総務課で勤務し、平成24年に事務副部長に就任、以後、経営企画管理課長、医療秘書課長、健診課長を兼務してまいりました。主に経理畑を歩んできたところですが、病院機能評価の受審、診療科別原価計算やBSC（バランス・スコアカード）の導入、新病院建設事業の起工等が私にとって特に大きなイベントだったと思います。

その新病院建設工事は順調に進んでおり、3月末時点の工事出来高は全体工事の約20%という状況となっており、今後は北棟の外壁仕上げ工事・内部仕上げ工事・各種設備工事等を施工し、9月末に1期工事が竣工し北棟及び別棟棟が完成します。その後、設備関係工事、引っ越し等を行い、平成30年1月1日オープンの予定です。北棟には、放射線治療部門・中材部門・給食部門（BF1）、

放射線診断部門・救急部門・外来診療部門等（1F）、外来診療部門・化学療法室・検査部・病理部・健診部等（2F）、手術部門等（3F）、管理部門・講堂・会議室等（4F）、産科病棟・NICU等（5F）、リハビリテーション部門（6F）が入ることとなっております。2期工事の南棟（10階建病棟）は平成32年12月にオープン、外構工事等を終え平成33年9月にグランドオープンする予定です。長い工期であり、期間中には現病院との動線等でご不便、ご迷惑をおかけしますが、できる限り患者さんの利便性を考慮した運用に努めてまいりたいと思っております。

当院では、新病院グランドオープンに向けて新たな7つの基本方針を掲げて「松山赤十字病院5ヵ年計画（平成29年～33年度）」を策定しました。その基本方針の1つとして、「地域の医療機関、保健・介護・福祉と連携を図り、急性期医療・専門医療を実践します。」を掲げております。愛媛県の「地域医療構想」を踏まえ、地域医療支援病院として地域に求められる医療を提供し、その役割を十分に果たして参りたいと考えておりますので、連携医療機関・施設の皆さまには、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

地域医療連携室副室長紹介

事務副部長 中山 潤三



連携医療機関及び連携施設等の皆様方には、日頃から当院の地域医療連携業務にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

この度、地域医療連携室副室長(事務)を拝命致しました中山潤三と申します。どうぞよろしくお願いたします。

4年ぶりに連携室に復帰してまいりましたが、現在の連携室は看護師14名、事務10名、社会福祉士4名、合わせて28名という大所帯となっております。私自身驚いているところです。

当院は平成9年に地域医療連携室を開設し、17年には地域医療支援病院として地域医療機関及び施設の先生方、看護師およびソーシャルワーカーの方々等と徐々にではありますが「顔の見える連携」を念頭に様々な取り組みを行って参りました。

しかしながら、医療を取り巻く環境はしだいに厳しさを増す中、28年度の診療報酬改定では退院支援加算が大きく変更され、より多くの退院支援に関わる職員を投入することが要求され、また、より質の高いきめ細やかな「医療、介護、福祉、在宅」と広範囲に亘った連携が必要となっています。まさに、国が推し進めてきております地域包括ケアシステムの一步と考えます。当院としても、このような医療情勢・動きに対して連携室が中心となって地域のニーズに応えるため、新たな地域医療連携、ネットワーク作りの取り組みが重要と考えます。

ところで、当院は今年新病院グランドオープンに向けて「松山赤十字病院5ヵ年計画」を策定しまし

た。その中の戦略的目標に「地域医療連携の推進」を挙げ、前方・後方連携の強化と多職種で構成される「患者支援センター(仮称)」を設置し、患者相談及び入退院支援体制の充実を図っていくこととしています。また、平成29年度の病院のビジョンを「地域を支える最高の急性期病院!」とし、平成10年から経営マネジメントツールとして取り入れているBSC(バランス・スコアカード)の「顧客の視点」の中で1年間のアクションプランとして、地域医療・介護・福祉施設への積極的な訪問、意見交換会を実施することに加え、紹介された患者のお断りゼロを目指しています。

今年9月末新病院建設工事のうち一期工事として6階建ての北棟が完成し、外来、放射線部門、手術室、事務部門、リハビリおよび病棟としては産科病棟等が移転一新され、現在、来年1月4日運用開始に向けて準備を進めているところです。なお、12月下旬には内覧会等を予定していますので、皆様方のお越しをお待ちしています。

最後になりますが、今後も皆様方の率直なご意見を伺いながら「より顔の見える連携」を目指して、連携室メンバーとともに頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第14回 地域医療連携フォーラム開催のお知らせ

■ 日時：2017年7月30日(日) 13:00～15:40

■ 会場：ひめぎんホール サブホール ■ 主催：松山赤十字病院 ■ その他：入場料無料・事前申込不要

《テーマ》『地域で守るかけがえのない命』～知って、防ごう ネグレクト(虐待・放棄)～

1部 児童虐待と育児放棄

基調講演 「児童虐待と育児放棄」

「松山赤十字病院成育医療センターの取り組み」

松山赤十字病院 小児科医師 西崎 眞理 先生
副院長 横山 幹文 先生

2部 高齢者虐待と自己放任(セルフネグレクト)

事例紹介 「今、救急現場で起きていること」

基調講演 「高齢者虐待と自己放任(セルフネグレクト)」

救急部長 藤崎 智明 先生
東邦大学 看護学部教授 岸 恵美子 先生

新任診療部長紹介

第二外科部長 南 一仁

この度、平成29年4月1日付けで松山赤十字病院第二外科部長の任を拝命いたしました南 一仁と申します。平成2年に広島大学を卒業、広島大学原爆放射線医科学研究所腫瘍外科に入局しました。広島、福岡、愛媛県の様々な施設で一般・消化器外科医として臨床研修を行った後、4年間大学院で腫瘍免疫の研究を行い、博士号を取得しました。大学院卒業後、四国がんセンターおよび済生会広島病院にて消化器外科医として勤務した後、平成20年4月以降は九州がんセンター消化管外科にて9年間、主として胃癌・大腸癌の手術療法に携わってきました。最近は、“人の体に優しい(低侵襲)”と言われる腹腔鏡下手術を取り入れ、特に直腸癌に対しては、積極的にその適応を拡大してきました。この適応拡大の理由は、低侵襲ということ以上に、“鏡視下では拡大視効果あるいは開腹では得られない視野が得

られる(手術操作野がよく見える!)”という利点が、腫瘍学的にも患者さんに有用な結果をもたらす、と信じたから

です。EBMにおいても直腸癌に対する鏡視下手術の有用性を支持する報告が増えています。また、究極の肛門温存手術と言われる括約筋間直腸切除術(ISR)にも積極的に取り組んできました。腫瘍学的に根治を目指しつつ機能温存を行うという、相反することを両立するという難しさがありますが、患者さんにとって望ましい結果が得られるように努力してきました。今後は、これまで培ってきた技術を用い、悪性疾患のみならず、外科治療が必要な良性疾患も、地域の先生方と連携を行いつつ、患者さんに最良の結果がもたらされるように、努力してゆく所存です。何卒宜しくお願いいたします。



第三外科部長 二宮 瑞樹

この度、平成29年4月1日付けで第三外科部長を拝命いたしました。平成10年に九州大学を卒業後、九州大学第二外科に入局し大学院課程修了後は大分県立病院、福岡東医療センター、九州大学病院に勤務し、2012年に米国 Mount Sinai Medical Center, Recanati/Miller Transplantation Instituteへ脳死肝移植手術修練目的に1年間留学しました。その後九州大学病院にて主に生体肝移植の臨床に従事し、前任地である済生会福岡総合病院では肝胆膵疾患の診療を中心に3年間勤務し、現在に至ります。肝胆膵領域の癌は概して難治性で外科手術は唯一の根治を目指せる治療法ですが、大手術となることが多く術後の合併症も重篤となりうるものが問題です。そのため根治性も追求しつつ、かつ

侵襲や合併症の少ない手術を行うことが最も重要と考えて日々の診療に望んでおります。前任地では肝切除症例の

約半数は侵襲が少なく術後の回復も早い腹腔鏡下手術で行って参りました。元々小範囲切除のみが腹腔鏡下肝切除術の保険適応でしたが、2016年より適応範囲が拡大し、亜区域切除や葉切除まで保険診療で行う事ができるようになっており、今後当院でも安全に実施可能な症例は取り組んで参ります。今後もこれまでの経験を活かし、地域の患者さんに満足して頂ける医療を提供できるよう更に努力を続けていく所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。



放射線治療科部長 浦島 雄介



この度、放射線治療科の新設とともに平成29年4月1日付けで放射線治療科部長を拝命致しました。平成9年に九州大学医学部を卒業後、九州大学病院、九州医療センターなど福岡市内での放射線科勤務を経て、大学の放射線治療部門にて治療医としての臨床経験を積み、機器更新された松山赤十字病院へ平成17年4月1日に着任し、放射線治療を担当しています。

着任した当時はCTでの治療計画が一般的となり、定位放射線治療(SRS/SRT)や強度変調放射線治療(IMRT)が大学などの一部施設で行われていた頃でしたが、コンピュータの演算能力や画像処理の進歩は目覚ましく、当時の革新的な技術も一般化し、今や標的となる臓器の動きや変化を捉えて治療計画に反映させる画像誘導放射線治療 IGRT (image-

guided radiotherapy)へと進化しております。また、重粒子線や陽子線治療などの先進医療も対象疾患に限りはあるものの、保険が適用される時代となりました。社会の高齢化が進む中、がん治療が必要な場面も年々増加し、がんに対する集学的治療の一つとして放射線治療が果たす役割も大きくなっているのを実感致します。当院でも新病院での機器更新にて定位照射やIMRT、IGRTなどの高精度放射線治療を開始予定であり、多くの患者さんへより低侵襲かつ効果的な治療を提供できるものと思います。これまでと同様にスタッフ一丸となって、個々の患者さんにより良い治療を提供出来るよう努力致しますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

第二消化器内科部長 八板 弘樹



この度、平成29年4月1日付けで第二消化器内科部長を拝命いたしました八板弘樹と申します。平成13年に熊本大学を卒業し、九州大学第二内科に入局。九州大学病院、済生会八幡総合病院で臨床研修を行った後に、済生会熊本病院に4年間、製鉄記念八幡病院に2年間、九州大学病院に1年間、福岡赤十字病院に2年間勤務し、平成25年4月1日に当院に着任させていただきました。洲上忠彦元院長先生をはじめ多くの諸先輩方が、地域の先生方のご支援のもと築きあげられた消化器内科は、全国屈指の消化器内科であり、その部長職につくことは非常に光栄であるとともに身の引き締まる思いが致します。

消化器内科では、従来の上部・下部消化管内視鏡検査、X線造影検査に加え、小腸・大腸カプセル

内視鏡検査、バルーン小腸内視鏡検査、及び、止血術、拡張術、腫瘍切除などの内視鏡治療を行っています。また、胃癌や大腸癌などの消化管癌の診断、内視鏡的切除と胃酸関連疾患の診療および炎症性腸疾患の診療を3本柱とし、各分野において全国レベルの最先端の医療を実践するよう努めています。これからも患者さんや家族に安心していただけるような負担のない検査、正確な診断、適切な治療を提供できるよう心掛けていきたいと思っておりますので、ますます密な連携をお願いできますと幸甚です。私に与えられた場において臨床面、研究面、ともに全力を尽くしてまいりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。



小児期に発症して成人期に治療が持ち越され、それに伴う過剰治療や過剰医療の問題がある。現在の医療情勢として限られた医療費でいかに有意義な医療を遂行するか、より賢い選択が要求されていることを認識すべきである。てんかんや糖尿病、高血圧など慢性疾患の治療や医療で大切なことや目標は、ほぼ共通していると思われる。患者や家族と社会行政において医療の負担(薬物などを含めた治療、治療に要する時間、費用など)がより少ないことが望ましい。実際の医療現場では患者

と医師の心配や防衛医療などのため、理想としての薬剤の非内服、薬剤治療の中止がより難しいことがある。また、患者や家族の心配も発達、成長とともにさまざまである。よりストレスフルになっている社会環境での子育てにおいて、イベントごとの患者や家族の「大丈夫ですか」という質問に、今までより以上の適切な対応、アドバイスが必要である。

キャリアオーバー患者（問題）

(持ち越し)

小児期の疾患をかかえた患者が大人になった時に受ける医療

オーバートリートメント

(過剰治療)

加療の必要性、量と期間

注意：てんかん治療の基本は適切な過剰治療です

Choosing Wisely

賢明な選択

(2012年米国内科専門医認定機構財団が始めたキャンペーン)

適切な医療を選ぶ

不要な医療をやめる

根拠に乏しいにもかかわらず実施されている過剰な医療行為をEBMの観点から見直す

薬剤(抗精神病薬など)、治療、画像検査など

慢性疾患 治療で大切なこと

医療側

- 1) 確実な診断
- 2) より有益な治療法の選択
- 3) 治療の安全な実行及び管理

患者側

- 1) 病状や治療の理解と選択(納得)
- 2) 治療の従順な実行
- 3) 治そうと思う熱意

医師 - 患者 - 家族間の信頼 (十分な説明)

薬物(抗てんかん剤)治療のポイント

- 1) 少量から
単剤が望ましい
- 2) 定期的検査
血液検査(検血、生化学) 検尿、
薬の血中濃度
- 3) 副作用の症状
薬の減量、中止、他剤への変更

ご両親、ご家族、ご本人の心配ごと

診断、治療方針、薬の副作用など 発作時の対応 日常生活で気をつけること
運動、勉強、睡眠、ストレスなど

知的、運動発達への影響

幼稚園、保育園、学校行事
プール、研修、修学旅行など

生活習慣病
脳卒中、がん、心筋梗塞
糖尿病、高血圧など

予防接種

成長、発達 - (加齢)

思春期における病気の理解、認識
進学、就職、転居、運転免許
結婚、妊娠、出産、子育て

1才 5才 10才 20才 30才 40才

小児におけるけいれん性疾患(てんかん)の

治療目標 (いずれも可能な限り)

- 1) 発作をなくし、QOLを高める
- 2) 必要のない薬は、内服しない
- 3) 薬の量は、適切な最少(限)の量で
- 4) 薬の中止はできるだけ早く
(適切なオーバートリートメント)
副作用出現の可能性を最小限に
- 5) 大人になる(社会に出る)までに中止してみる

注意) 勝手に薬は中止しないこと。

主治医とよく相談して治療を選択、決定しましょう

平成28年度 松山赤十字病院 診療連携に関する アンケート調査結果について

地域医療連携室

(%)	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
1. 医師満足度	78.7	18.9	2.5	0.0	0.0
2. 患者満足度	63.9	27.0	8.2	0.8	0.0
3. 連携室に対する満足度	75.4	20.5	4.1	0.0	0.0

平素は、当院連携室の事業運営にご支援、ご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

さて、今年2月に地域医療連携に関するアンケート調査をお願いし、122施設の先生方よりご回答をいただきましたのでご報告いたします。

1. 医師、患者、連携室に対する満足度

医師満足度、連携室に対する満足度で「満足」の割合が前年度に比べて各々8.0、3.0ポイント増加、「やや満足」が5.2、1.9ポイント減少しました。患者満足度においては「満足」の割合が0.5ポイント減少、「やや満足」が1.9ポイント増加しました。引き続き満足度の向上に努めたいと思います。

2. ご意見・ご要望に対する回答

① 返事が1時間以上かかると予想されたら病院の方に連絡が欲しい。

回答……原則20分以内に返信をさせていただいております。主治医への確認等の為に遅くなる場合は、その旨ご連絡をさせていただいておりますが、再度徹底いたします。

② 時間外ホットラインの対象、高次の対応を要する疾患、その基準は何か教えてほしい。

回答……当院受診歴のない患者さんも対象となります。また、高次の対応を要する疾患とは、高エネルギー外傷、Ⅱ度30%以上の熱傷等の3次救急対象となる疾患をいいます。

③ 当院紹介患者が退院時に他院へ転院となることが多い。

回答……原則紹介元へお帰りいただくようにしておりますが、家族の希望、転院目的等により他院へご紹介することがございます。その際は、主治医か

らご連絡をさせていただくよう徹底いたします。

④ 転院時に感染症等の流行があったら、状況を知らせてほしい。

回答……感染症等の流行があった場合、調査、情報収集を行い、関連医療機関にご連絡をさせていただいております。

3. お断り事例について

紹介を結果的に断られた例を17件ご指摘頂きました。また毎月の地域医療連携室運営委員会においてもお断り事例について検討しており、平成28年度は計56件のご紹介についてお断りしておりました。理由として、肛門疾患や骨腫瘍など当院に専門医がいない場合、手術適応でない、リハビリ目的等、当院での治療対象でない場合が約半数を占めており、他に多いのは、紹介当日に医師不在、手術等で対応困難な場合があります。また高齢者の骨折が年々増加しており整形外科では各々専門的な予定手術が多い中で救急当番日の骨折患者の対応があり、救急日以外のご紹介については対応できないこともあるようです。一方、検討した中には受け入れるべきであったと思われる事例もあり、このような場合は院長から該当の診療部長に状況の確認をしております。

いずれにしましても地域医療支援病院として連携医療機関からの紹介については「お断りしない」ことを原則として今後とも取組んで参ります。

皆様からいただきましたご意見・ご要望を真摯に受け止め、地域医療連携室及び院内の業務内容を見直し、できる限り皆様のニーズに対応できるように取り組んで参りますので、今後とも、当院地域医療連携室をよろしく願いいたします。

FAXによる受診予約

地域のかかりつけ医の先生方からFAXによる紹介患者さんの受診予約を承っております。これにより患者さんを来院日に各診療科へ直接ご案内することが可能になります。
※17:10以降にいただいたFAXにつきましては、翌日のお返事とさせていただきます。

■ 発行責任者 / 院長（地域医療連携室長）横田英介

■ 編集 / 松山赤十字病院・地域医療連携室 〒790-8524 松山市文京町1番地

TEL 089-926-9527 FAX 089-926-9547 <http://www.matsuyama.jrc.or.jp/>